



対象地域：陸前高田市

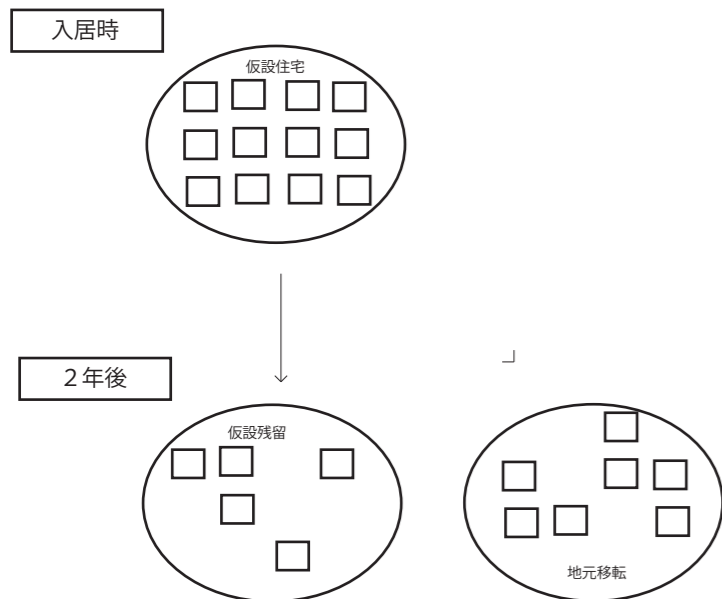
陸前高田市は 65 歳以上高齢者の占める割合が全国平均を上回り、3 割にもものぼる。

津波により壊滅的な被害を受けたこの地域では高齢者福祉施設も崩壊し福祉サービスが失われた状態にある。

住人の半数以上は地元に戻りたいと希望しているものの、復興には時間がかかると考えられるため、長期的な仮設集住の計画が必要だと考えられる。

### プログラム

- ①福祉サービスを備え、地域ぐるみで高齢者ケアに取り組みやすい環境をつくる。
- ②仮設入居期間が過ぎた後も継続して介護拠点となり、地元と仮設集住を連携させる。



#### <問題点>

地元に戻る人、仮設住宅に残る人に分かれ、コミュニティがバラバラになってしまう。

#### 福祉サービス拠点

- ・デイケア
- ・介護相談
- ・イベント

地元

入居想定期間の2年を過ぎた後も、この仮設地域を残し、高齢者福祉の拠点として、地元との連携を図る。

- ・仮設地域と地元を運行するバスを走らせ、ケアセンターを利用しやすくする
- ・地域のイベントを仮設地域の体育館で行い、地元に戻った人が残った人と交流を図れる機会をつくる

### 配置計画

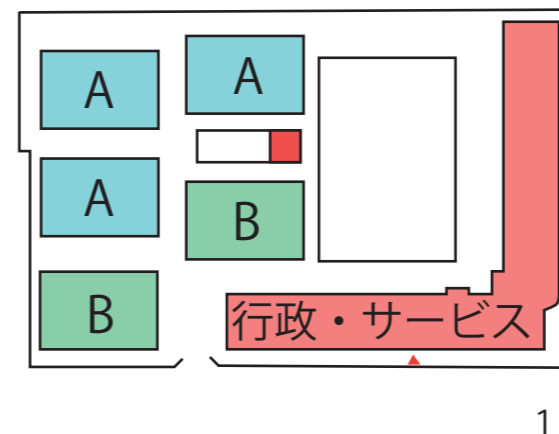
入居時

<校庭>

- 仮設住戸 A
- 仮設住戸 B
- ケア施設

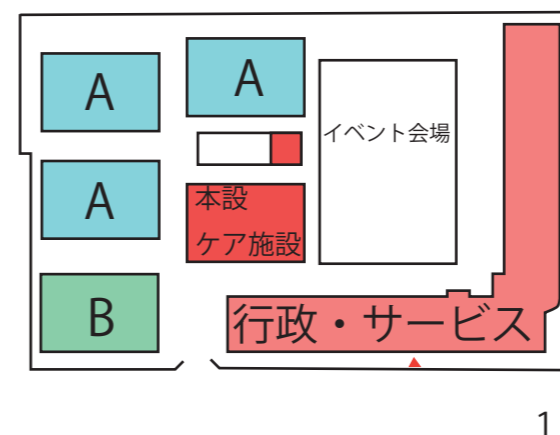
<既存校舎>

- 1F 行政・公共サービス
- 2F 仮設住戸 C
- 3F 仮設住戸 C

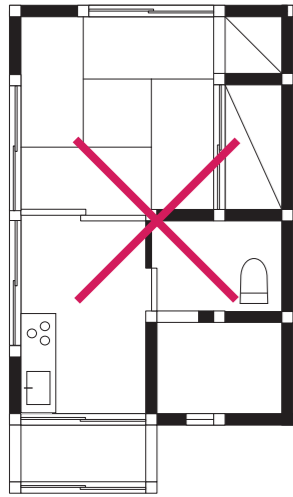


2年後

- ・ B 棟が全員退去した場合→撤去して本設のケア施設を新たに建設
- ・ その他空き住戸→
  - ・ デイケア利用者、入居者家族の宿泊
  - ・ イベント参加にきた地元住民の宿泊



単身高齢者のすまい

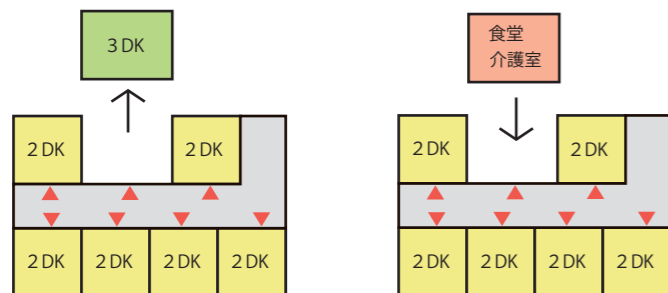


単身での居住は人の目が届きにくく、  
高齢者ケアには不向きであると考えられる

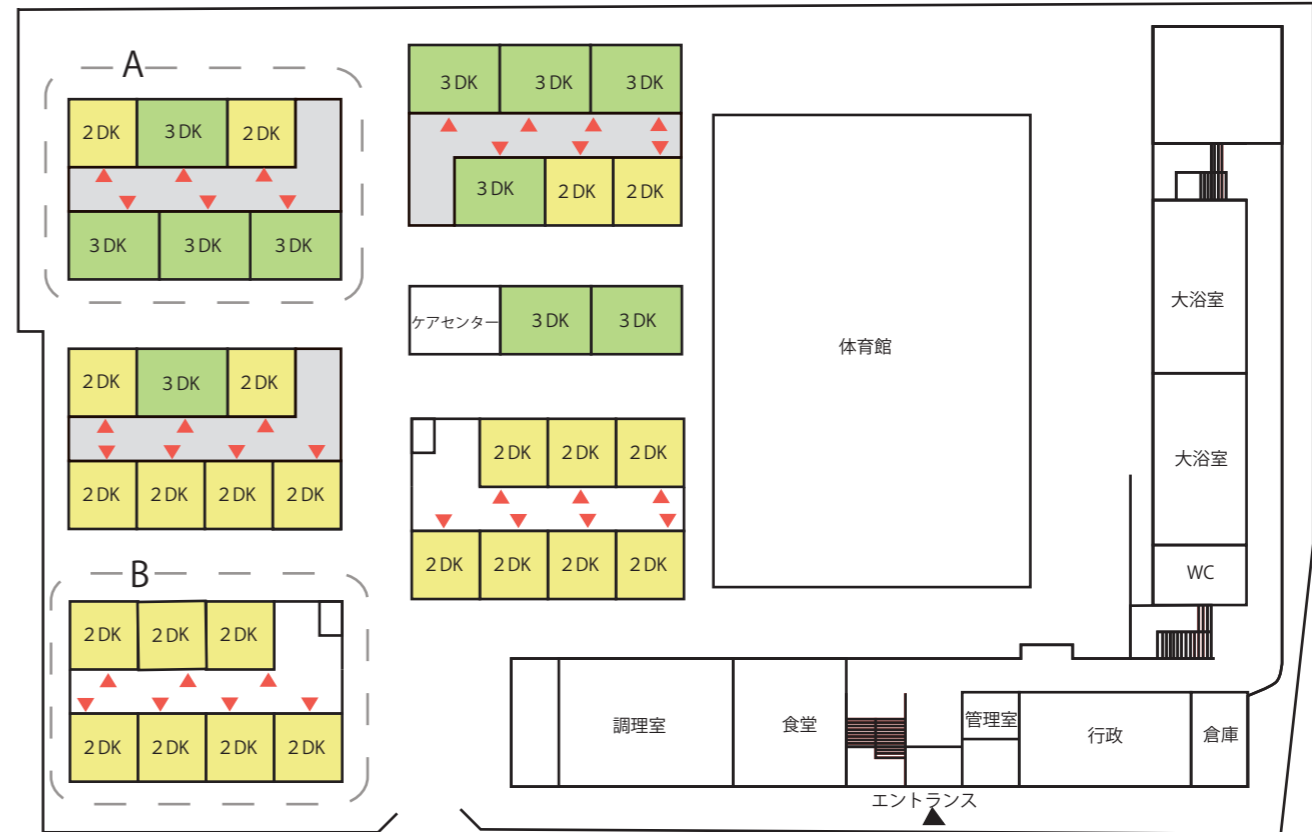
また、震災後、仮設住宅での一人暮らしに不安を抱き、  
知り合いと一緒に入居したいと希望する高齢者も多い。  
この仮設集住では単身者用の1DK住宅は設けず、  
家族世帯が使用する2DKや3DKに2~3人が共同で暮らす。

2年後のプラン変更 仮設集住から福祉拠点へ

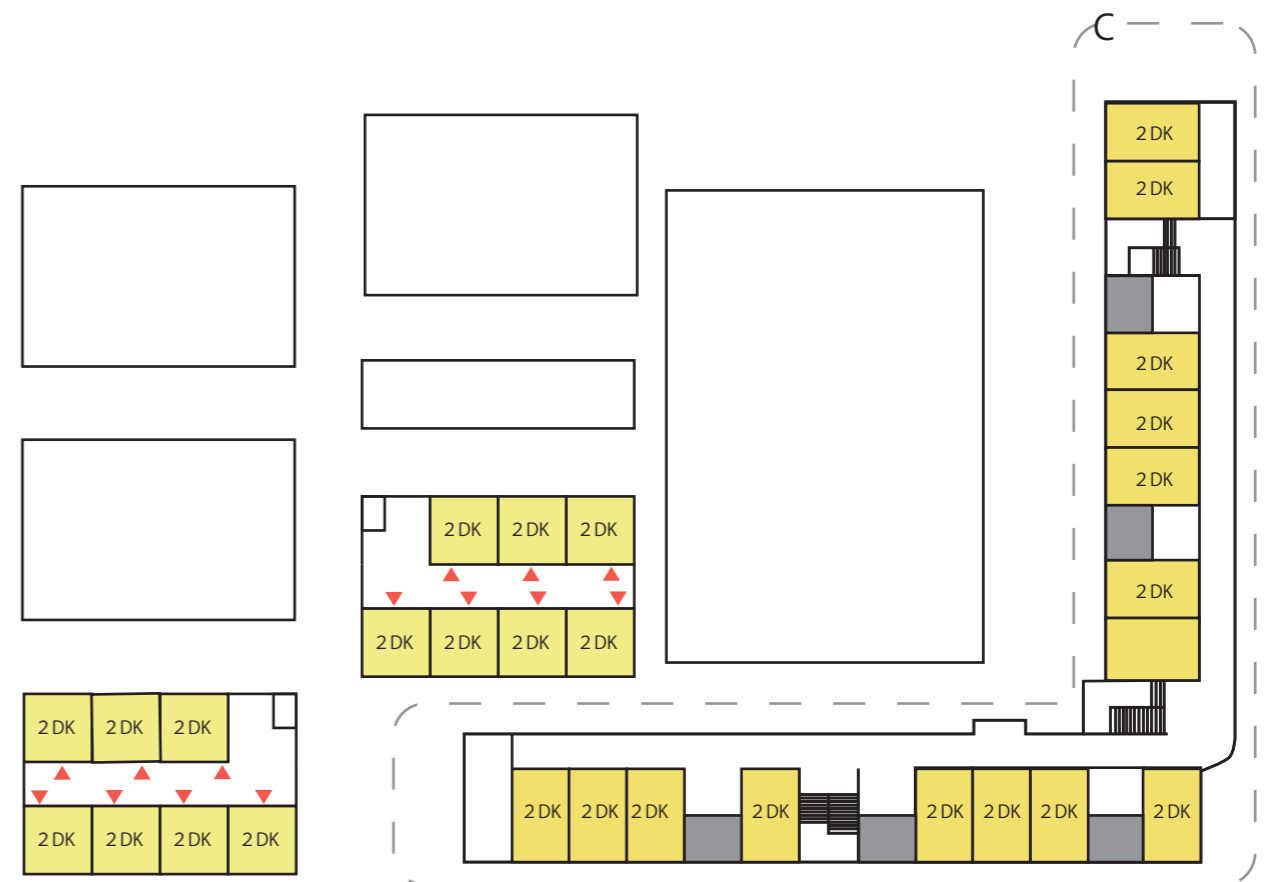
- ①入居者が全員退去した棟を取り壊して必要施設を新たに本設
- ②仮設住宅をそのまま利用したグループホーム



部屋を取り払い、  
食堂室・介護室を新たに設置

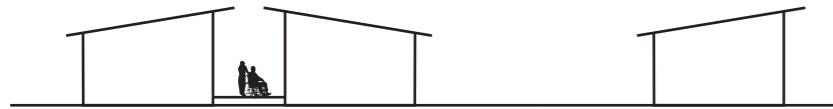
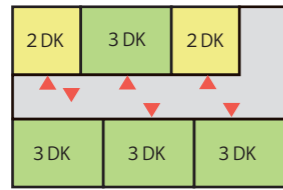


1階平面図 S=1/600



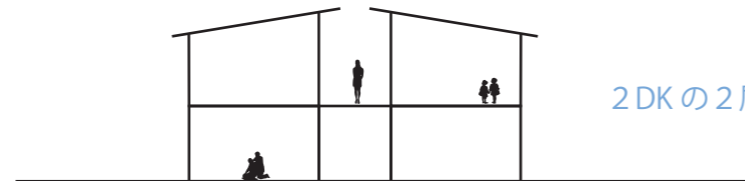
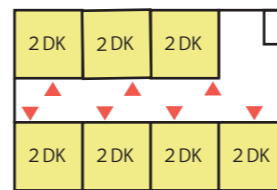
2階平面図 S=1/600

Aタイプ



断面図

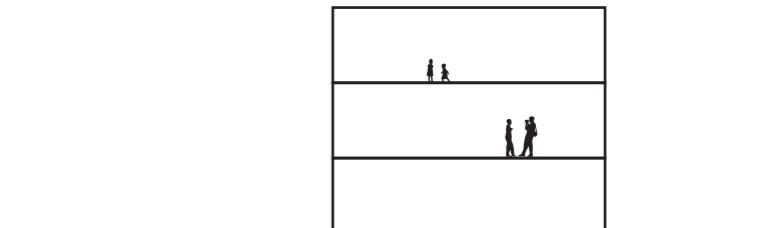
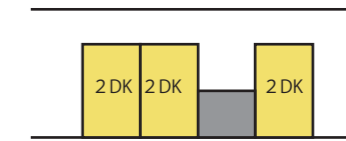
Bタイプ



2DKの2層ユニット

断面図

Cタイプ



断面図

3世帯家族  
(要介護者含む)

介護を要する高齢者は外に出にくい。  
部屋をデッキ側に配置すると、  
住民が集っている気配を感やすい。



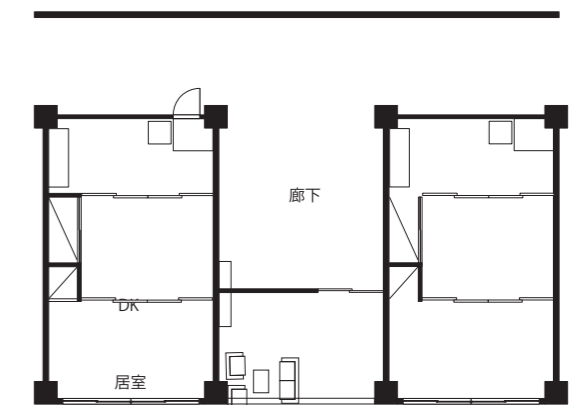
単身高齢者3人

1階部分は高齢者世帯  
2階は夫婦と子供世帯や母子世帯 など  
様々な世帯が入り混じったタイプ



階段周りに共有スペース

既存校舎の2階、3階に2DK住戸を設ける。  
各部屋はキッチンのみ備え付けで、  
既存トイレと1階につくった大浴場を使用。



校舎側 2DK

居室 3住戸  
共用デッキ

外部デッキと室内スペースを3住戸共有で使用。  
使い方は3世帯で自由に決める。  
例えば…子供の遊び場、本を持ち寄って共有図書室 など

